会議記録

会 議 名	第５回　杉並区教育振興基本計画審議会
日　　時	令和３年４月２３日（金）午後６時３０分～午後８時３０分
場　　所	杉並区役所　中棟５階　第３・４委員会室
出 席 者	委員 　牧野、小国、大津、加藤、片山、小早川、渋谷、西山、増田、 　松野、大竹、河邉、松浦 区側 　教育長、教育委員会事務局次長、教育政策担当部長（教育人事企画課長事務取扱）、学校整備担当部長、中央図書館長（教育委員会事務局生涯学習担当部長兼務）、庶務課長、学務課長、特別支援教育課長（就学前教育支援センター所長兼務）、学校支援課長、学校整備課長、生涯学習推進課長、済美教育センター所長、済美教育センター統括指導主事（佐藤、加藤）、済美教育センター教育相談担当課長、中央図書館次長
配布資料	34　　第５回杉並区教育振興基本計画審議会席次表 35　　第５回杉並区教育振興基本計画審議会区側出席者名簿 36　　第４回杉並区教育振興基本計画審議会における委員意見の概要 37　　新教育ビジョンの骨子（修正案）
会議次第	１　開会 ２　資料説明 ３　議事 （１）新教育ビジョンの骨子について ４　事務連絡 ５　閉会

○会長　それでは、定刻になりましたので、おまけの回だと思いますけれども、第４回プラスアルファの第５回目の杉並区教育振興基本計画審議会を開催いたします。

委員の皆様には、本日もご多忙のところ、全員の方にご出席をいただきました。７名の方が今日はオンラインでの参加になりますので、こちらの現場というか、対面でいるのはほとんど行政の方々という、ちょっとスカスカな感じで変な感じがしますけれども、どうもありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、小国副会長、大津委員、加藤委員、片山委員、小早川委員、大竹委員、河邉委員の７名の方にはオンラインでの参加となっております。よろしくお願いいたします。

それから、小国委員ですが、まだ今授業をやっていまして、多分６時35分ぐらいまで５限目の授業が入っていると思いますので、少し遅れて入られるということですので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、前回の審議会において骨子案についての議案がまだ必要だということで、追加でこの回を設けさせていただきました。今日は、前半で骨子の柱となる言葉を確定できればと考えております。こちらの審議会はあと２回予定をされていまして、次回には審議委員の皆さんには起草された草案を読んでいただいて、議論をいただきたいと思います。繰り返しとなりますが、今日は骨子案の言葉を確定したいと思いますので、活発なご議論をお願い致します。

そして、後半には、新教育ビジョンの尊重すべき価値や基本方針を踏まえて、教育行政に期待する具体的な取組、特に家庭や地域、学校または園、子供園ですとか、幼稚園等への支援などについても議論ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、今日は録音等のご希望はないでしょうか。

分かりました。では、結構ですね。

それでは、議事に入る前ですけれども、４月に事務局で人事異動があったということですので、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局次長　皆さん、こんばんは。４月に教育委員会事務局次長になりました齊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

部長級につきましてはほかの異動はございません。また、隣におりますのは庶務課長の村野でございます。学務課からの異動となります。

○庶務課長　庶務課長、村野です。よろしくお願いいたします。

○事務局次長　このほか、本日出席しております課長級職員につきましては、お手元の資料35の区側出席者名簿のとおりでございます。時間の関係もございますので、紹介につきましては省略させていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長　どうもありがとうございました。

それでは続きまして、本日の会議資料の確認と説明を事務局からお願いいたします。

○庶務課長　庶務課長の村野です。よろしくお願いいたします。

次第の裏面に本日の会議資料の一覧を記載してございます。資料について事前にお送りしてございますが、もし本日お忘れの方がいらっしゃいましたら、事務局で用意していますので、お声かけいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、本日配付しました資料につきましてご説明させていただきます。

資料34は本日の審議会委員の席次表、資料35は本日の区側の出席者名簿となってございます。

次に、資料36ですが、こちらは前回、第４回の審議会で委員の皆様からいただいたご意見を事務局で概要としてまとめたものでございます。前回は、前半に新ビジョンの構成案についてご議論いただき、方向性についてご了承をいただきました。その後、骨子案につきましてご議論いただいたところですが、先ほど会長からお話もありましたように、前回の議論では柱となる文言を含めまして、まだちょっと議論が必要というところでございました。

続いて、資料37は、前回の審議会で出されたご意見を踏まえまして、会長ともご相談させていただいて、骨子の修正案として整理したものでございます。本日特にご確認いただきたい部分は、このⅡ番の「基本方針・視点」までの太字で示させていただいた部分です。なお、柱となる文言の下にある、丸で記載しているのがございますが、こちらにつきましては前回と同様の記載となっております。

前回のご議論の中では、柱となる文言について前向きな言葉で、子どもや大人も分かりやすい言葉で、キャッチフレーズ案としていた「ちがいを認めあい、誰をも大切にする学びのまち杉並」についてはＩの「尊重すべき価値」に落とし込めないかといったお話がございましたので、それらをもとにした修正案となってございま

す。

まずはキャッチフレーズですが、前回の案では「ちがいを認めあい、誰をも大切にする、学びのまち杉並」となっておりましたが、こちらについてはご意見を踏まえて、Ｉの「尊重すべき価値」に落とし込むこととし、分かりやすく前向きな表現ということで、「学びを贈りあい、人が育つ杉並の教育」を仮置きとしてございます。

次に、「Ｉ　杉並区の教育が尊重すべき価値」ですが、こちらは前回のご議論を踏まえて修正をしております。１つ目は「すべての人が孤立することなく共に生き、共に学ぶ」でしたが、分かりやすい言葉で前向きな表現ということで、今回は「つながりを感じ、共に学び、共に生きる」としてございます。

２つ目は、「一人ひとりが比べられることなく自らの人生をよりよく生きる」としてございましたが、こちらは「一人ひとりが比べられることなく」という表現をキャッチフレーズから「ちがいを認めあい」という表現に置き換えています。

３つ目は、「互いに信頼し、誰もが社会をつくり担う主人公となる」というものでしたが、こちらも分かりやすくということで、「信頼しあい、誰もが社会のつくり手になる」としてございます。

なお、この３つにつきましては、以前は①、②、③という記載をしてございましたが、並列にしたほうがよいという意見もございましたので、①から③という記載はやめて、「◇」のような形で記載してございます。

Ⅱの「基本方針・視点」につきましても、子どもに分かりやすい言葉や表現にするということから、１番につきましては「子どもの自治と権利を尊重する」となってございましたが、「子どもの思いを尊重する」という表現に置き換えています。

２番については、「ちがいを認め、高め合う」は変更ございません。

３番目は、「子どもも大人も対話的にかかわりあう」となってございましたが、「対話的」が分かりづらいといったことから、「対話を大切にして、かかわりあう」としてございます。

４番につきましては、「誰もが社会の当事者として、社会をつくり、担う」は変更ございません。

５番につきましては、「学びを贈りあい、「学び」がつなぐ人と人との関係をつくる」となってございましたが、後半部分についてちょっと変更しまして、「学び

を贈りあい、学びがつなぐ人と人との関係をつくる」から「学びを贈りあい、学びを通して人がつながる」という表現にしてございます。

以上が資料37についての説明になりますが、１点ご紹介としまして、先日４月14日に開催しました教育委員会におきまして第４回の審議会の報告をいたしました。その際に教育委員の方からは、ビジョンの作成に向けて審議会委員の皆様のご苦労が伝わってくる、今後もご審議よろしくお願いいたしますといった感想をいただいているところでございます。

また、その中で、キャッチフレーズにつきましてお２人の委員からご意見をいただきました。キャッチフレーズの作成に当たって、現在のビジョンの「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」という今の言葉がとてもよいので、今のままでもよいのではないかという内容でございました。同じものであっても、変化している、進化していることが分かれば無理して変えなくてもよいのでは、今も生き生きとしている言葉であり、普遍的なものなのでといったご感想をいただいたので、ご紹介させていただきました。

私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

〇会長　どうもありがとうございました。

それでは、議事に入りたいと思います。最初に、この資料37を御覧いただけますでしょうか。こちらが前回の皆さんのご議論を受けたものから、さらに事務局と私で検討させていただいて、少し文言を修正したものが今日出されております。

会長がしゃべり過ぎてはいけないかもしれませんが、最初に少し話の経緯みたいなことを申し上げます。

キャッチフレーズですけれども、「学びを贈りあい、人が育つ杉並の教育」という形で仮に書かせていただきました。先ほど教育委員の皆さんのご提案というか感想で、これまでのものでも普遍的な価値が入っているのでよいのではないかというご議論がありましたが、それも１つの案だと思います。

やはり私たちがここで考えたいと思いましたのは、今、コロナ禍にあります。今度また緊急事態宣言が発出されることが決まって、なかなか収束をしないのですが、コロナウイルスと共存するということですとか、コロナ禍収束後のことも考えなければいけないということもあります。それから、この審議会ではずっと議論をしてきましたが、社会が今大きく変わっているということ。特に人生100年を生きる時代

になってきたということと、さらには大人たちが子どもたちにこう生きなさいと言えなくなってきたということがある。さらに、社会が多様性ですとか、ダイバーシティ、インクルージョンと言っているような、お互い認め合いながら、さまざまな価値が入り乱れて、否定しあうとか、１つの価値にしてしまうわけではなくて、それらがまた新しい価値をつくり出し続けて価値豊かな社会になっていくことが目指されるような社会になってきました。

そういうことを受けながら、何となくコロナの時代で鬱々とした感じで、何となく元気が出ない感じになっていますけれども、本来であれば、今、この外の景色のように若葉が萌えてきて、わくわくするような感じがするということがあっていいのではないか。その意味では、私たちの思いとしましては、杉並が日本の教育を引っ張っていくといいますか、変わるよ、最先端なのだよといったことを示しつつ、その中で変えてはいけない価値があるのではないですか、と提案できないかということで考えたということが１つあります。

その結果、従来の「共に学び共に支え共に創る」といったことでもいいかもしれませんし、また新しい価値を入れていくといったことがあるかもしれません。どうしても譲ってはいけないものは、基本的には人権の問題ですとか、さらには自己決定、尊重されるということであり、さらに自己決定には、決定したからあなたの責任ですよという自己責任にされないということでもあると思うのです。それが孤立をしないといったことにつながるだろうと思います。その意味では、自己決定は尊重されるべきものであって、突き放されるべきものではないということも含めて、「贈りあい」、お互いに何とかしあうという表現が入らないかということを意識しておりました。

それから、「尊重すべき価値」のところでは、「つながりを感じ、共に学び、共に生きる」ということで、従来の「共に」という言葉が入っているのですが、そのつながりを重視したいということに関しましては、孤独が好きだという方がいらっしゃる。つながりと言われたくないという方もいらっしゃるのですが、実は先ほどちょっと午後の早い時間帯にほかのところでまちづくりの議論をしていまして、つながりという議論になったのですが、そのときにある方がこうおっしゃったのですね。「孤独を愛するというのはとてもいい話で、おれはパソコンを使って１人でネットサーフィンするのが好きだ、孤独でいいのだ、勝手にさせてくれと言うのだけ

れども、その人ってパソコンをつくった人のことを思い浮かべているのでしょうかね」というわけです。または、「ソフトをつくった人のことを思い浮かべていますかね。そういう人たちがいなければ自分はそこでパソコンを愛して、ネットサーフィンして楽しむのだから放っておけと言えないはずですよね」ということなのです。

そういう意味では、つながりというのはある意味でイマジネーションを豊かにしていく、いろんなところに思いを馳せていく力をつけるということでもあるでしょうし、そうであれば、他人のこともおもんぱかる、配慮し合う関係をどこかでつくっていく。だからこそ私は孤独に本を読みたいとか、孤独にパソコンをさわっていたいと言えるようになるのだといったことをどこかで確認ができないかなということなのです。

そういう意味では、配慮し合いながら、尊重し合って、社会や他者に対して想像力を働かせて、共に学び、共に生きていくという社会ができないか、その基盤を教育がつくれないかということになるでしょうし、さらに違いを認め合うといったことは、配慮し合いながら相互に尊重し合うということです。その意味では、違いを認め合いつつ、自分がちゃんとここにいてよいのだと思えるということにおいて、それらが、みずからの人生をよりよく生きていくという形でつながらないだろうかということです。

さらに、配慮し合うといったことは、社会に対して信頼をつくっていくということになるので、この社会は自分たちが生きるに足りるのだ、信頼するに足りる社会なのだという形で、さらにそういう社会を自分たちでつくって、より豊かな社会にしていこうという動きといいますか、区民の方々がそう思い、実践できるような教育のあり方をつくれないかということで、この３つの尊重すべき価値といったものが入ってきていると理解をしています。

そして、基本的には区民の方々が自分たちでこの社会をつくっていくし、自分たちでやっていくのだといったことを基本にして、行政がその基盤を支えていく。行政がサービスをして何か与えていくとか、または区民の方々も何か与えられることを求めるということではなくて、自分たちでやっていく。そのときには一緒につながっていくし、認め合っていくし、尊重し合っていく。そこで新しい価値をつくり出して、自分たち自身が豊かな――豊かというのは物的な豊かさだけではなくて、価値的な豊かさといったものをつくり出していくのだ。そこでは、何度も議論にな

って、否定的な言葉は使わないほうがいいという話になったものですが、「取りこぼさない」とかは入っていますけれども、やはり一人も取り残さない社会をつくっていく。みんなが一緒になってつくっていく社会の基盤を教育がつくるのだという、そういうイメージで全体の骨子がつくられればという思いがあって、このような表現をさせていただいているということになります。

ここまでにさせていただきますけれども、こうしたことを受けて、今日もう少し言葉の重複ですとか、さらにはもう少しイメージがということもあるかもしれませんので、ぜひとも皆さんのほうからいろいろご議論をいただいて、今日できればこの骨子を基本的に固めておきたいと考えています。その後、文章の起草に入りたいと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、ご意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

○委員　こんにちは。年度当初のお忙しいときに、改めてこういう修正案を作成していただきまして、大変ありがとうございました。

全体の内容を事前に拝見させていただきまして、少し感じたことがありました。どういうことかといいますと、別の会のときに私ちょっとお話しさせていただいていますけれども、学校運営協議会の立場でこの会に参加させていただいております。

私どもの学校は、16年前、一番最初にコミュニティスクールになった学校です。最初のころは、コミュニティスクールとしてどう学校をつくっていけばいいのかということが分かりませんでした。子どもたちのためになることをということで、皆さんでずっと話をしてきましたけれども、なかなか見つからない状況が続きましたが、焦っても仕方がないので、学校と直接関わりながら地に足がついた部分で物事を考えていくのがいいだろうと活動を続けておりました。

その中で、よく耳にする言葉があって、それは「地域」という言葉でした。従来、学校と保護者と子ども、その三者の関係だったところに、新たに「地域」という言葉が入ってきました。ただ、これの「地域」という言葉の実態が見えないまま、言葉だけがどんどん先行していき、そこの部分にものすごく違和感がありました。本当に地域って学校に対して何ができるのということがかえって引っかかってきていました。

それと別に、学校には保護者、ＰＴＡの組織もありますけれども、三つ巴で動こうと思ったときに、最初の時点では学校運営協議会（地域）の理解が先生方にも全

部行き届いていなかったと思いますし、ましてや保護者にとっては学校運営協議会や地域の存在ってどんなものなのか全く分からない状況だったと思います。子どものために、学校のためにこういうことをやろうと学校運営協議会から発案をしていった中で、保護者から出てくる言葉として、「上から指示が出てきた。ですとか、一方的に言われた」というような声も聞かれました。それが12～13年ぐらい前のところだったと思うのです。

その後、現在の教育ビジョンが出てきました。ＰＴＡも含め、学校と三者でうまく回していかなければいけない中で、私たちが常に皆さんに言っていたことは、子どものために一丸となりましょうと、その方向性だけをずっと語っていきました。活動を試行錯誤している最中、10年前に今現在の教育ビジョンが出てきまして、そこに盛り込まれていたのは「共に学び共に支え共に創る」、活動を進める上で必要であったのは、まさにこれだったわけです。杉並は、教育ビジョンそのものがコミュニティスクールを確立していく上でものすごく大切な部分になっていったのです。少なくとも私たちの学校ではそういう役割がありました。

なおかつ校長先生が現在の教育ビジョンを受け止めて、教育ビジョンがこうだからこうしなさいという指導ではなかったと思うのですけれども、そこをかみ砕いて、折に触れて地域と学校と保護者のかかわりについてそれとなくお話をされる機会が増えていきました。それを学校と関わっていた人たちは聞いていて、徐々に理解を深めてくださって、私たちと一緒に動いてくれるようになりました。

なおかつ、先生方にも校長からどのように説明をして指導されていたのかよく分かりませんけれども、ある日から先生方が「地域」ということをものすごく意識するようになったのですね。先生方が言っている地域というのは、学習の題材でもあり、共に学ぶことのできる場所や人であって、それをどう子どもたちの学習や地域に反映できるのかを手探りしながら学校現場では取り組んでいます。校長先生、我々、教員、当然子どもたちにもそういう意思はどんどん広がっていくわけですけれども、そうしたことで教育ビジョンのこの骨格の部分、キャッチフレーズの部分が学校や地域に浸透していったわけです。教育ビジョンを基軸にして活動することができたことで、学校運営上の違和感がなく今現在を迎えています。

地域との関わりの結果の一つとして、これは小学校２年生の子どもですけれども、表紙に「●●さんへ」というお手紙をいただきました。子どもたちは、地域学習の

結論や学習成果は別にまとめているのだと思うのです。それ以外に地域と子どもたちがかかわることで、地域のおじさんに対してこういうメッセージをくれるわけですよ。なおかつ学習はそこで終わるわけではなく、町で私たちと会えば挨拶もする、学校で会えば当然挨拶もする。私たちにしても子どもたちに何かをしてあげたいという気持ちになっていきますよね。子どもたちの学習にかかわるということは、そういうことなのかなという気がします。

ですので、先ほどから話が出ていますけれども、現状の教育ビジョンをこのまま生かすか、その延長線にあるのか、それを発展するのかということも視野に含めて、もう一度ご検討いただければという思いがあります。

それと、現在の教育ビジョンが出てくる前に、中学校１年生の地域学習のお手伝いをしたことがありまして、13歳の男の子から「おじさん、聞きたいことがあるのだけれども、僕たちが大人になっていくために何を学んだらいいの」と聞かれました。今になって考えれば、そのときにこういった教育ビジョンが私の頭の中にあれば、それに沿ったある種の伝達ができたのかなとすごく今感じています。そういったことで、本当にこの教育ビジョンのキャッチフレーズの大切さをどうやってこれからみんなに伝えていくのか、広めていくのか、理解し合うのかというところをいま一度考えていただければなと思っています。

○会長　このビジョンのキャッチフレーズに関してですけれども、前回、これまでの教育ビジョンのキャッチフレーズとＣＳの活動の深まり、理念が共有されていくといったことが重なることで、ある意味では新しい学校づくり、より深い形での学校づくりが進んだというお話で、そういうこともあるので、新しい教育ビジョンもそれを踏まえてどうするか。発展させるのか、深めていくのか、または切りかえていくのかといったことを少し検討したらどうかというご提案だったと思います。

今、●●委員のお気持ちとしては、現行の教育ビジョンのキャッチフレーズは大事にしたいということでよろしいでしょうか。

○委員　恐らくコミュニティスクールになった学校は、区内でも年数の古いところと、例えば２年前になったばかりの学校など様々だと思います。私たちが体験してきた問題点と同じようなことに直面したときに、これが１つのキーワードになって乗り越えられるきっかけになる可能性があります。経験年数が短く、そのような体験をまだされていない学校も実はあるのではないでしょうか。そういった意味で、

まだまだ寿命のあるキャッチフレーズなのかなと思っています。

○会長　新しいところも今までの教育ビジョンのキャッチフレーズは有用ではないか、意味があるのではないかと。それは、例えば教育委員の方がおっしゃる普遍的な価値に意味があるのだからということともかかわってくるのだろうと思いますけれども。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○委員　この新しい修正案を拝見させていただいて、前回の骨子案からは随分前向きになったな、分かりやすくなったなという感じがいたします。今ここではまずキャッチフレーズについて意見を述べたいなと思います。

キャッチフレーズの言葉、「学びを贈りあい」が、一般にはキャッチフレーズを読んだだけではなかなか理解しにくいのではないかなと思います。また、その後、表記上も、そこで読点を打って「人が育つ」だと、「学びを贈りあい」と「人が育つ」が分かれているので、「人が育つ」というのがどうも他人任せ的な表現に見えなくもない。教育で人が育つのを目指すというのは当然のことなので、キャッチコピーにすることでもないのかなと感じました。

そういったことで、この新しいキャッチフレーズ、コピーとしては印象が弱くなっている気がいたします。「学びを贈りあい」が骨子案の５のところにも出てきているので、あえてキャッチに入れなくてもいいのかなと思いまして、そうなると、キャッチフレーズを変えなくてもいいという教育委員の意見もごもっともだなと思いますし、今の●●委員のご発言を含めて、私もそれに賛同したいなと思いました。

○会長　ありがとうございます。同感ということでしょうか。

分かりにくいということと、あと、「人が育つ」というのは教育としては当然のことであるので、どうか、ということです。特に基本方針・視点のほうにも入っていますので、それらも含めて今までの教育ビジョンのキャッチフレーズを生かせないかというご提案だと思いますけれども、いかがでしょうか。

○委員　私も最初に会長からいろいろと背景になるお話を伺って、そこは本当にそのとおりだなと思います。ただ、キャッチフレーズとしては、やはり今お２人の委員がおっしゃったように、その言葉から湧くイメージが、贈るって何をするのだろう、自分は誰に対して何をするのだろう、そういう具体的なイメージの共有がちょっと難しいかなという印象がございます。その言葉からのイメージがある程度皆さ

んと共有しあえるように、やっぱり動作というか、動画モードで共有し合えるような言葉がキャッチフレーズとしては一番ストンと落とし込みやすいと思いますので、私もキャッチフレーズは変えずに継続したらどうかなと思いました。

ただ、そこに副題をつけるかどうかはまた議論のあるところかもしれませんけれども、大筋はこれでいったらどうかなと思います。ただ、教育委員の先生方のお話にもあったように、中身が大きく変わっている。特に目指す人間像をなくしたということは大きいと思うのですよ。

それから、また後でも言いますけれども、私、この「尊重すべき」という言葉はあまり好きではなくて、「尊重する」でいいと思っているのです。そういう価値を明確にしていくことも新しい在り方かなと思いますので、その辺のところで新しさは伝わっていけばいいのかなと思いました。

○会長　キャッチフレーズは変えないままにして、中身が大きく変わっていますので、現行の教育ビジョンのキャッチフレーズをさらに発展、進化させたという形の受け止めもあるのではないかというお話だったと思います。

では、オンライン参加の委員の方々、いかがでしょうか。

○委員　皆さん、こんばんは。どんなキャッチフレーズがいいのか、もとのままでいいのかちょっと分からないのですけれども、私も「学びを贈りあい」の「贈りあい」というのが一般的には難しいかなと感じました。「贈る」というときには主体者の意思が働くような気がして、そんなニュアンスを受け取れますけれども、例えば小さな子ども、赤ちゃんとか乳幼児の場合は、その存在そのもので私たちはたくさんの恩恵を受けているし、多分、障害のある方たちもその存在だけでたくさんの恩恵を私たちが受けていて、本人には贈っているという意思はなくても、私たちはいただけていると。そこまで「学びを贈りあい」という言葉から人々がイメージできるかなというと、ちょっと難しい気がしました。

○会長　この「贈りあい」が分かりにくいというか、強い意思が入っていなければいけなくなるような感じがするということだと思います。むしろそこにいるだけでみんなが受け取るものがあるのではないか、お互いに影響を与え合うものがあるのではないかということですね。そうしたこともやはりキャッチフレーズの中に反映させることが必要ではないかというご指摘だったと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員　先ほど現在のキャッチフレーズがいいというお話もしましたけれども、それに固執しているわけではなくて、今の段階でこの議論があるのかわかりませんが、あるのかどうかあれなのですけれども、昨年12月に教育シンポジウムが開かれて、私も参加させていただきました。その中で、会長から「センス・オブ・ワンダー」のお話をいただいたり、探究心ですとか、わくわくすることが大切なのだよねと。これは教育にとって、子どもたちにとって、ものすごく大事なキーワードだと思っているのですね。

少なくともあそこの会場にいた皆さんは教育に対して熱い思いを持たれている方で、前向きに考えられている方が多くて、そうした方たちの恐らく大半の方が共感されていると思うのですよ。それなりに意識の高揚もある中で、多分次の教育ビジョンはこういう方向になってくるのではないかなと感じて帰られた方も多数いらっしゃると思うのですね。私はあの部分を忘れ去ってしまっていいのかなという気が今しています。

○会長　わくわく感というか、教育って本来そういうものではないですかみたいなことだと思うのですけれども、そうしたものをうまくこのキャッチフレーズに反映させ得ることができるかですね。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

オンライン参加の方、ちょっと悩ましいかもしれませんけれども。

○委員　私もキャッチフレーズについては、皆さんおっしゃるように「贈りあい」というのはわかりにくいように思います。ただ、この漢字をあえて使っているところに熱い思いがあり、尊重し合いながら学びを一緒にやっていこうということなのだろうとは思いましたが、そこはやはり一般の皆様には難しいなということと、この「学び」がいわゆる名詞になっていますよね。そうすると、学びというもの自体が一体何なのだろうと。前回の概要の中でもお話が出ておりましたけれども、「それって何ですか」と聞かれたときに、説明するのは私自身も難しいと思うのですね。

「共に学び」という前のキャッチコピーで言うと、「共に学び共に支え」は動詞を用いてつくられているキャッチフレーズなので、何かそこに前向きさも感じますし、みずからが動いていかなければいけないのだなという思いが伝わるすばらしいキャッチフレーズではあると思います。

ただ、●●委員がおっしゃるように、「センス・オブ・ワンダー」のあの世界がキャッチフレーズの中に生かされたら、それはまたとてもわくわく感が皆さん感じられて、本当に杉並の教育が変わっていくのだなと受け取られるのではないかなと思いました。なので、皆さんのお話を聞いていて、あらためて「センス・オブ・ワンダー」だったなと思いました。

今回、新しいキャッチフレーズを送っていただいたときに、これをもっと分かりやすくって何だろうと思ったときに、例えば「贈り」を取ってしまって、「学びあい」とか、「人が育つ」というのは、皆さん一緒に育ち合いたいということではないかと思い「育ちあい」にしては。あと、「尊重すべき価値」の中にも入っていますけれども、これからの世界を共に生きていくのだというところは皆さんで一緒に共感できるところではないかなと思います。皆さんのお話を聞いていて、ぜひ「センス・オブ・ワンダー」の世界をキャッチフレーズの中に出せたらいいなとは思いました。

〇会長　ありがとうございます。どんどん難しくなっていってしまう感じですけれども。「センス・オブ・ワンダー」、びっくりする力、驚く、不思議に思う、もっとやりたくなってくる、探求したくなる、そういうことですけれども。

オンライン参加の方々、いかがですか。距離が離れているので、他人事みたいになっていないようにしてください。お願いします。いかがでしょう。

〇副会長　キャッチフレーズなのですけれども、新しいビジョンが決まったということの象徴になると思うので、そういう意味では、私も前のキャッチフレーズに全然反対ではないのですけれども、キャッチフレーズ自体は変えたほうがいいのではないかなという気はするのですよね。

それと同時に、この「学びを贈りあい」が分かりにくいというご指摘が最前から続いているような気がするのですけれども、逆に言えば、分かりにくいということがメリットにもなり得る気もする部分もあります。つまり、何なのだろうというところから学びに関する議論が始まっていくであるとか、「贈りあう」というのはこういう意味で決めたのです、みたいなことを説明するところから、ある意味、出発点を確認することができる。そのような意味で言えば、分かりにくいということがもしかしたらデメリットだけではないような形にし得るのではないかという気もしています。

○会長　変えることが大きな意味があるのではないかということと、それこそ「センス・オブ・ワンダー」ではないですけれども、不思議に思ってもらうことの意味があるのではないかというご指摘だろうと思いますけれども、ほかにいかがでしょうか。

○委員　今のご発言は衝撃的で、画期的な、逆説的な、面白いご意見だなと思いました。さっき私は分かりにくいと言ったけれども、説明するということだとしたら、短く「学びを贈りあう杉並の教育」でいいような気がします。キャッチフレーズを変えることには賛成です。

○会長　ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員　私もキャッチフレーズを変えることに賛成です。ただ、ご提案いただいたものは、パッと第一印象で見たときに、杉並でやっている次世代育成のキャッチフレーズかなと思ってしまうのですね。そんな捉えられ方をするのではないかなという危惧は少しありました。

　あと、先ほどおっしゃられたように「杉並の教育」といったときに、パッとこうだと言えるキャッチフレーズ。例えば「わくわく」というのは軽薄な言葉なのかもしれませんけれども、何か「わくわく」みたいな分かりやすい、子どもたちがわくわく、先生がわくわく、保護者の皆さんがわくわく、地域の皆さんがわくわくするみたいな、そんな期待が持てる明るいキャッチフレーズがいいかなという気がします。

○会長　わくわくのほうに今どんどん動いていますけれども、いかがでしょうか。

　さきほど、私もわくわく感と言いましたが、あと、変わるよという予告みたいなことと言いました。もう１つ、「贈りあい」といったことをどうしようかと思いながら、実は「教えあう」。学ぶだけではなくて、教えあうという行為そのものを入れたらどうかという印象もありました。

　なぜかといいますと、これからどんどん個別学習が進んでいくはずなのです。ＧＩＧＡスクールもそうでしょうし、パソコン、タブレットが入って、どんどん個別化が進んでいくのですが、そこで学びあうことは当然なのですけれども、自分が学んだり、得たりしたものをすぐ誰かに教えてあげましょうみたいな、そういうつながりも大事ではないかなと思ったのです。

　ですから、お互いに学びあうことも大事ですけれども、自分が得たものを私物化

しない。みんなのものにしていく、共有財にしていくということもどこか価値として入れられないかなという思いもあって、「贈る」ということをご提案したのですけれども、分かりにくいことは確かなので、もう少し今皆さんがおっしゃった何かをうまく組み込めるとよいのではないかとも思います。ただ、全部組み込むとまた総花的になってしまうかもしれませんので、どこに重点を置くか、ですが。

今、何となくわくわくするですとか、変わっていく、新しくなる、というところで、自分たちが主役なのだというイメージを持ったのですけれども、その辺りを少し強調できるようなキャッチフレーズが何か出てくるといいかなと思うのですけれども、何かご意見はありますでしょうか。

〇委員　キャッチフレーズはなかなか難しいなと思って、そこはこれというご意見は出せないのですけれども、その下にある「尊重すべき価値」の３点ですね。こちらは前回が「何々することなく」みたいな、どちらかという課題解決型みたいなところから表現されていたのが、ポジティブな言い方になっています。まず、価値の３点のほうはポジティブなイメージになったので、こういう形でいいかなと思っています。

その上で、今キーワードになっている「学びの贈りあい」というところも、この３つの観点にあるつながりであったり、シェアしていくようなところ、「共に学び、共に生きる」、あるいはつながりのときのお互いを認めあう、この辺の３つの価値が「贈りあい」というところに入っているのかなと思って、この３つの価値の表現が非常によくなったので、ここからもう１回キャッチフレーズにエッセンスを戻せないかな、見つけられないかなと思ったところです。

具体的な言葉は思い浮かばないのですけれども、考え方だけコメントさせていただきました。

〇会長　こちらの「尊重すべき価値」「尊重する価値」の３つのところからキャッチフレーズへ戻せないかというご提案がありましたが、こんな感じがいいのではないかという何かご提案はありませんでしょうか。

〇委員　私も文言そのものを変える、変えないということはもちろんこだわるつもりはありませんけれども、ただ、さっきも言ったように、何をアクションとしてするのか。動画モードで再生できるようなフレーズがいいなと思うのですね。そのときに、「贈りあう」ということも、贈る、贈られるということは大事な関係だと思

うのですけれども、●●委員がおっしゃったように、自分にその意識がなくたって贈られている、贈っているという、それもまた大事な存在なのですよね。そういうことを考えると、印象がちょっと弱いかなと。そんなイメージです。

○会長　ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員　キャッチフレーズを含めて、Ⅰ番の価値観、Ⅱ番の方針もそうなのですけれども、これは大人に向けたメッセージですかね。子どもに向けたメッセージなのか。中身を見ていきますと、大人に向けた部分と子どもに向けた部分と、それぞれの使い方が混在しているようにすごく感じるのですね。ただ、現状の「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」というキャッチフレーズを見てみると、これは子どもの行為だけではなくて、子どもたちを支えていく大人たちがこういう指標を持ってやっていくのだよということを示していることがわかります。それと比較すると価値観や方針の対象が曖昧になっているのかなという気がします。

それと、Ⅰ番の価値の一番上で「つながりを感じ、共に学び、共に生きる」とあるのですが、Ⅱ番の基本方針の５番で「学びを贈りあい」、その後に「学びを通して人とつながる」と書かれていて、価値の「つながりを感じ、共に学び」は、共に学ぶことから人とのつながりを感じるのであって、逆ではないかなと思ったのです。恐らく会長さんが冒頭でご説明して下さった内容と言葉の並びを入れ替えると主旨が変わってしまうと思うのですけれども、ここら辺の整合が必要かと思います。私は教育的な話を優先に持っていくのであれば、共に学ぶことによって人がつながっていくのだというストーリーのほうがいいような気がしています。

○会長　誰に向けてなのかということなのですけれども、ここはまだ委員の皆さんの中でいろいろと思いがあって、それが入り込んでしまっていることがあると思います。例えば子どもの思いを尊重するというのは、基本的には大人が尊重するということになるだろうと思いますけれども、そのときの議論は、子どもたちはある意味で弱い存在というか、表明権がきっちりと保障されていないのではないかという議論の中で、ちゃんと大人側がそれを受け止めて、子どもたちがちゃんと思いを表明できるようにすべきだという議論があった中で出てきたものだろうと思うのです。

ですから、もしそこを大人も含めてということになれば、みんなの思いを尊重するとか、いろんなやり方になると思うのですが、その辺り、特に子どもたち、ある意味では従来の弱い存在、または社会的弱者と言われている人たち、声を挙げられ

ない人たちの声をちゃんと聞きましょうということであると、どこかそこはきっちりと出しておく必要があるのかを考える必要があります。その辺りをまた少し議論しなければいけないかと思うのですが、いかがでしょうか。

あと、つながるといったことも、つながりながら感じていくのか、または学んでいくのか。学ぶことを通してつながることが目指されていくのかといったことも、当然これは筋道が違ってきてしまいますので、その辺りも少しまた議論をしていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○委員　最初に価値のほうで「尊重すべき価値」。私はさっきも言いましたけれども、この「べき」はやっぱりやめたい。ちょっと上から目線かなと思うのですよね。みんなで「尊重する」でいいのではないかとまず思います。

それから、最初のところは私も●●委員と同じ印象を持っていまして、やはりつながりというのは結果でいいのかなと思います。最初からつながりがあるという前提はなかなか難しいだろうと思うのですよね。ですから、「共に学び、共に生き」で、そうすると「つながりを感じる」ではちょっと弱いので、「つながりをつくる」とかですね。そういうほうがいいかなと、この１番目については思いました。

○会長　もう１つは、ビジョンの在り方としてずっと議論していますけれども、行政に対する提言ではなくて、区民の方々に対して私たちがこうしますよということ、区民がこうしますよといったことを出した上でビジョンのほうへ、ここから以降は推進計画を立てていかなければいけないので行政の役割になりますから、その前の段階として、区民として私たちはこうしますというつくり方に今回なっています。その意味では、「教育が尊重すべき」というのは、むしろ従来は審議会から行政のほうにすべきですよと言っていたのですけれども、そうではないということですので、「杉並区の教育が尊重する価値」、または「大事にする価値」、何かそのようなことにできればと思います。

あと、いかがでしょうか。つながりの位置づけみたいなことに今なっていますが。例えば「感じ」ということよりは、むしろ「つくっていく」にしたほうがよいのではないか。そうすると、「共に学び、共に生き、つながりをつくる」という表現になるということもあるかと思います。

あとは、誰に向かってこれを訴えていくのかといったときに、基本は大人たちなのか、または子どもたちなのか、または全ての区民なのかといったこともあります

けれども、この辺りはいかがでしょうか。

オンライン参加の委員の方々、いかがですか。

○委員　キャッチフレーズまでつながっていくといいかなと思っていることがちょっとありまして、基本方針の１番の「子どもの思いを尊重する」。それで、説明の一番下の行の真ん中に、「子どもの意見表面権の尊重」という言葉なども書かれています。これは、子どもたちから意見を出させるのはいいのですけれども、これを誰が受け止めていくのかです。私たちの小学校では、６年生たちを集めて、ＣＳ会議で子どもたちからの生の意見を聞き取っています。その中で一番気をつけなければいけないのは、子どもたちから意見を聞き出して、それをそのまま放置してはいけないということです。きちんとそれを大人が受け止めて、答えられることは答える。答えられないことは答えられないときちんと説明していかないといけないのではないかなという話だと思うのです。その辺がちょっと曖昧なまま、この大きい太字のテーマのところがボーンと出てきている怖さが実はあります。

これがキャッチフレーズにつながるきっかけになるか分からないのですけれども、子どもたちの思いを受け止められる社会や環境をみんなでつくっていこうよとか、子どもたちの意見を生かせるような環境や社会をつくっていこうよということが教育ビジョンの中で結構大切なことなのではないかなと思っているのですね。子どもたちの意見を尊重するということを重視するのであれば、そこに視点を持っていってもいいような気がします。

○会長　基本は子どもたちなのだろうかということも含めて、あるべき人材像みたいなものを置かない。10年後にこういう子どもたちを育てていくのだということを置かないことにしておりますので、その意味では、今の大人がそう決めるわけではなくて、子どもたちが自分たちで成長していくことを支えましょうということになると思うのです。そのときに、子どもの思いを尊重する、意見をどう聞くのかといったことを問わなければならないのではないかということだと思います。

あと、書き方もあると思うのです。それをキャッチフレーズに反映させるかどうかということも当然あるのですが、１つは、うまく今すぐこうだと言えないのですけれども、各柱があった中に、例えば子どもたちの思いをきっちり聞き取って、まず大人たちがそれを受け止めて、ちゃんと子どもたちとの関係をつけていく。さらにそれをできるように行政がちゃんとしなければならないですよみたいな、そうい

うことが中に文言としては書き込むことができるのだと思うのです。

　ですから、そこはそれとして考えていきながら、この柱をどうするかといったことだと思うのですけれども、これはどうしましょうか。その辺りも含めて、ちょっと時間が気になりつつはあるのですが、もう少しご意見を頂けますでしょうか。

○委員　内容についてではないのですけれども、今回の運営、ファシリテーションのところで会長にご相談です。今回、リモートの委員が多いので、発言するタイミングがなかなか難しくて、会場とリモートで発言が偏ってしまう傾向がある気がするのです。文脈はそれぞれ離れてしまうかもしれないのですけれども、もしよろしければ、発言していない委員とかに会長のほうから指名していただくと発言しやすいのかなという気はしました。進め方のご提案です。

○会長　ありがとうございます。今、指名しようかなと思ってはいたのですけれども、言いわけではありませんが、困っているような顔をされている方もいるので、どうしようかなと思ってはいました。

　いかがでしょうか。発言されていない方。

○委員　先ほどからＩの「杉並の教育の尊重すべき価値」のところとキャッチフレーズのところでいろいろ考えていて、私のほうも難しいなと思って一生懸命考えていたのですけれども、私は、キャッチフレーズのほうで子どもたちの思い、そして声にならない声を吸い上げるというところでは、「思いを守る」という言葉がいいのではないかなと感じました。「学びあい、思いを守る杉並の教育」のような形で、何となくシンプルで、多様性などを大事にするという価値の部分でもいいのではないかなと。ちょっとひねり出したような感じなのですけれども、そんなふうに思いました。

○会長　「子どもの思いを守る」ということを入れたらどうかと。「学びあい、思いを守る杉並の教育」というような形のものができないかというご提案です。

　ほかに、●●委員、いかがですか。

○委員　私は全くこういう言葉のセンスがないので、何がいいかよく分からないのですけれども。最初のころに副会長のほうからもあったように、逆説的になるかもしれないけれども、説明することで理解してもらうというところでは、この説明というものが、価値とか、基本方針や視点、ここを読んでくるとこのキャッチフレーズが分かるというふうなつくりにできればいいのかなと思いました。

ですから、そういった視点でこの柱の文言が検討できるといいかなと思ったというところで、なかなかアイデアは出てこないのですけれども、あとは委員の方々の意見を聞きながらまた考えていきたいと思っています。

○会長　不思議に思って読んでいくと、ああ、そういうことだったのかと思えるようなこともあるのではないかということだと思いますけれども。

あと、●●委員、いかがですか。今手が挙がっていましたけれども。お願いいたします。

○委員　私も●●委員と同じで、考えていて、言おうかなと思ったときに話が進んでいていたりして、なかなか発言できなかったのですけれども。私の印象としては、最初のキャッチフレーズはちょっと変えたほうが、「ああ、変わったのだな。何か新しいことが始まるのだな」と分かるというか、感じる方が多いのかなと思いました。

あとは、この「人が育つ杉並の教育」という言葉は、教育者の方からしたら当たり前なのかもしれないのですけれども、子育て最中の母親、保護者から見るとすごく分かりやすくて、教育で育つという部分もシンプルで分かりやすいなと感じました。一緒に学んでいくことで一緒に育っていくということなのかなと思ったのと、今なかなか一緒にやることができないこの状況の中で、一緒に育っていく、一緒に学びあうというところはやっぱり入れていったいいのかなと感じました。

短期間で前回と今日までの間にすごく分かりやすくなっていまして、とても感謝しております。ありがとうございます。

○会長　変わったということが分かるように変えたほうがいいのではないかということと、あと「学びあう」という関係の在り方。さらには、ちゃんと子どもが育つのだということですね。そうしたことを組み込んだらどうかというお話だったと思います。ありがとうございます。

●●委員、いかがでしょうか。

○委員　私もこういう具合に参加するのはこの会が初めてなので、キャッチフレーズも皆さんのご意見をお聞きしながら考えていたのですが、何かキャッチフレーズって、対象とされているターゲットの方が広いから、結構抽象的に聞こえてしまうのがこういう教育とかの形なのかなと考えているのですけれども、そもそもキャッチフレーズを抽象的であやふやな感じで伝えていきたいのか、それともちゃんと明

確に、パッと見たときに「ああ、こういうことを訴えているのだな」と、分かりやすくターゲットの方に伝えていきたいのかということを考えると、私は見た感じでいくと、ちょっと何か分かりにくいかなと思ってしまうのですね。

私は、一般の親からすると、杉並区は何が言いたいのだろう、みたいな感じで、ちょっと分かりにくいなと。抽象的にぼやっと言っておいて、突っ込むところを突っ込ませないみたいな。抽象的に何かやっていますよ、みたいな。逆に杉並区というカラーをもっと言っていくのであれば、パッと見たら３秒ぐらいで、「杉並区はこうやります」みたいな感じの言葉なり実行していくようなフレーズが入っていると、その３秒の瞬間で、「杉並区はこういうことをしていっているのだな」と分かるように具体的にされるほうが皆さんは分かりやすいと思うのです。

それをわざとあやふやにされているのか、もっと具体的につくり込んでいって、こういうことというものをキャッチフレーズで訴えていくのかが、私が聞くと、ビジョンがどっちのほうにいっているのかよく分からないなと聞いていて思ってしまいました。以上です。ちょっとした感想です。

○会長　分かりにくいというか、多分どんどん議論していくと抽象的になっていってしまうことがあるかと思いますので、一旦具体的なものに落としてみるということもあるかもしれません。今、３秒ぐらいで分かって「杉並はこういうことをやるのだ」とパッと分かるようなことがあったほうがいいのではないかということだと思いますけれども、いかがでしょうか。悩ましいのですけれども。

これは私たちが本を書いたりするときもそうで、タイトルをめぐって、編集者と営業と著者の間で意見が合わなくて、だんだん議論をしているうちに煮詰まってしまって抽象化してしまうのですけれども、一番最初のほうがよかったねみたいに戻ることがよくあるのです。変に議論しないで、直感的によく分かるものを出してくることはよくあるのですが、いかがでしょう。もう一度皆さん、いかがですか。この辺りで、我々は一体何をしようとしているのかといった辺りから、一発で何かスコーンと落ちるような何かが出てこないでしょうか。

あれこれ言葉をつなげばやろうとしていることはあるのです。簡単に言えば、さっき申し上げたように、新しい時代に入って、子どもたちが100年生きる時代に入ってきたということと、自分１人で関わっていく、一緒になって自分たちの人生を自分でつくっていくことを期待したいということもありますし、どんどんＡＩが発達

をしていく中で、どうやって自分の人生をつくっていくのかといったことも課題化されています。さらには多様性ですとか、いわゆるインクルージョンという議論ですね。お互い認め合いながら、お互いの関係の中でそれぞれが自分の人生が歩めるようにしていく。助け合って一緒につくっていく社会、そういうことがイメージされているということ。

ある意味では、学校教育はその基盤をつくることになっていきますし、さらにはそれが生涯学習ということになっていく中で、大人たちが学びでつながっていきますし、さらには大人たちが子どもたちの学習を支えていく。お互いに交流していきながら、お互いが変化していくことを促し合うみたいな、ある種、動的な関係のイメージを持っていらっしゃるのではないかなと思うのですけれども、今私かだらだらと言ったことを一言で言うようにするにはどうしたらいいかということなのですが、何かないですかね。

○副会長　今のお話を聞いて思ったのは、「人生100年時代に向けて、つながりあい、共に学びあう杉並の教育」ぐらいでどうですかね。

○会長　いかがですか。ちょっと長いでしょうか。そこはちょっと置いておいても、「人生100年時代に向けて、つながりあい、共に学ぶ杉並の教育」という感じでいかがかということなのですが。

○委員　「尊重する価値」の１個目、つながり、あるいは共に学びあう、この辺りの順番がどうなのかという議論がありましたけれども、順番はあるとしても、やはりコミュニティの中でつながっている、そこで学んでいくという感覚では、今副会長がおっしゃっていただいたように「つながりあう」みたいなニュアンスは、●●委員もおっしゃっていましたが、入るといいなと思って、今のは非常にいいなと思いました。

○会長　今の「つながりあい、学びあう杉並の教育」というニュアンスはとてもいいのではないかということですけれども、いかがでしょう。

○副会長　補足していいでしょうか。僕の提案したキャッチフレーズのときの私のイメージは、その３つの価値のうちの１つ目の「つながりを感じ」というのは取ってしまったらどうかということでした。「つながり」というのは何か二者関係のような感じがしまして、「共に生きる」は何か面になっているようなイメージで、コミュニティなのだろうなという気がするのです。

そうすると順番としては「つながりを感じ」が先になったほうがいいかなと思ったりもするのですが、むしろこれは全体を覆うものとして、●●委員がおっしゃったようにキャッチフレーズに取り出したらどうかなという提案でした。●●委員に補足していただいた気がしたので、ありがとうございます。

○会長　つながりといったことをキャッチフレーズへ取り出して、価値のところから外したらどうか。簡単に言えば、つながるというのは、今、副会長は二者関係のようなと言われましたけれども、例えば自分と社会がつながっているという感じ方もあっていいと思うのです。ですから、その意味では、ネットワークということよりは、むしろ自分がちゃんと社会に位置づいているという感覚を持つことにもつながるだろうと思いますけれども、その辺り、言葉をつなげていけば言えることが一言でなかなか言いにくいですね。

よく「居場所がある」という言い方をしますけれども、これはキャッチフレーズとしては何となく違和感があるのではないでしょうか。社会に位置づけがあるのだとか、そんなことも言われるのですけれども、なかなか一言では言えない言葉になってしまいます。ただ、その意味では「つながり」という言葉を入れたらどうかというご提案ですけれども、いかがでしょうか。

○委員　私もあまりキャッチフレーズはうまくないのですけれども、今まで出てきていたキーワードを取り出しながら、現教育ビジョンの「共に創る杉並の教育」を生かす形ではどうでしょうか。この「共に」には、人と人とのつながり感があると感じています。

それを新たなキーワードと組み合わせて「学びあい、認めあい、共に創る杉並の教育」とすることで、現状の教育ビジョンを継承する部分があるのは如何でしょうか。

○会長　現在の教育ビジョンにある「共に」、現在は「共に」が３つ重なって、「共に学び共に支え共に創る」となっていますが、それを「学びあい、認めあい、共に創る杉並の教育」という形でどうかということですけれども、いかがでしょうか。

○委員　言葉ってすごく難しくて、私もこれだという決定打はもちろんないのですけれども、「つながる」ということを「共に」と前回表現して、また、前回このキャッチをつくったときは、持続可能社会とか、そういったことも多分イメージして

いるのですよね。「支え」とか、「創る」とかいうところで。かなり包容力の広い言葉なので、できたら内容で勝負というところで、こだわりませんけれども、私はそういう意見です。無理に変えるというイメージを持たれてもどうなのかなという感じもしますし。こだわるつもりはございませんが、継承することはどうか、いいのではないかなと思います。

○会長　現行のビジョンのキャッチフレーズをそのまま継承して、中身が変わったと読んでいただくことでどうかということだと思いますけれども、いかがでしょうか。

●●委員、いかがですか。いるだけで学ばせてしまうような存在、子どもたちも障害も持った方々もそうではないかというお話が先ほどありましたが、何かその辺りでうまく今の「共に」ですとか、「つながる」といったことに関して何かご意見はありますでしょうか。

○委員　大変難しいですね。でも、広く区民の皆さんに理解を得ると思うと、「共につながりあい、学びあう杉並の教育」というのがストンときて、ここの中には小さな子どもも自分のことが自分で言語化できない方たちもちゃんと入るかなという気がします。

あと、今のキャッチフレーズと差異があまり分からないので、さっき会長がちょっと長いかなとおっしゃったけれども、「人生100年時代に向けて」とか、今どきこれから向かう方向ですよというのが入るとよいのかなと感じました。すみません、有効打がなくて。

○会長　「共に」という言葉を生かしながら、「つながる」を入れたらどうかということ。それから、新しい社会に入ったということを示すような言葉を入れたらどうかということだと思いますけれども、ほかにいかがでしょうか。

○委員　全く違う感じのことを申し上げてしまうかもしれないのですけれども、キャッチフレーズの中に入れるのは難しいなと思ったのですが、第１回目の審議会のときの意見の中に、区立子供園長会から出ていた言葉で「はてなの連鎖」というフレーズがありました。「はてなの連鎖」が展開される教育、保育を保障するという、乳幼児から大人まで、自分自身がはてなの連続を１人でも追求したり、ほかとつながりながら共同による追求ができたら学びも深まっていくという、「はてなの連鎖」というのがあったのです。

これは実は「センス・オブ・ワンダー」のところから出てきている言葉なので、こちらの言葉が何か１つ入ってくると、最初の先生の思い、「センス・オブ・ワンダー」から導かれてきた１つの言葉かなと思うので、どこかに入ってくると、「はてなの連鎖」というのは子どもにも分かりやすいと思いますし、大人たちもちょっとわくわく感もあるので、こういう言葉も入ったらよいのではないのかと思いました。皆さんの議論からはちょっと外れてしまって申し訳ないのですけれども。

○会長　「センス・オブ・ワンダー」、わくわくする、はてなの連鎖、それは探求ということにつながるのでしょうけれども、そうしたものもどこかに文言化して入れていけるといいかと思いますし、もし可能であれば柱の中にニュアンス的なものが入るといいかと思います。ありがとうございます。

ほかにオンラインの方もいかがでしょうか。本当は今日ここで確定したいと思っていたのですが、これだけの委員の中でもいろいろ意見が出て、なかなか決まってこないのですけれども。何となくイメージは共有されていると思うのですけれども、それを短い言葉で表現しようとすると、ちょっとずつずれが出てきてしまうということがあるのだと思いますが、どうしましょうか。

一応会長預かりで、事務局とご相談させていただきながらでよろしいですか。ここまで議論をしていただいたので、それを受けて、私のない頭を絞りながら、副会長にも手伝っていただいて、あと事務局の方々にも知恵を絞っていただいて、また皆さんに一旦お返ししてご提案をさせていただいて、またご意見をいただくという形でよろしいでしょうか。キャッチフレーズのところはそんな形で対応させていただいてよろしいでしょうか。

○委員　冒頭私が申し上げたのは、現行ビジョンのキャッチフレーズに特に固執しているわけではなくて、それに比べたら今回出てきた案は、こう言うと大変失礼な言い方だけれども、学校教育の立場から言うと、ちょっとこれではない感があるなということでお話をさせていただいたのですね。もちろんよりよいものができるのであれば、変えることはやぶさかではないので。

今これというのは言えないのですけれども、ただ、１つ言うとすれば、今までの「共に学び」からもし進化させるとしたら、「共に学び」というのは、例えば教室で一緒に勉強しているのも「共に学び」なのです。でも、今の学習のスタイル、教育のスタイルが「学びあい」というほうに進化していくとすれば、「共に学び」よ

りも「学びあい」のほうがいいなと考えたときに、そのほかの言葉もそういう言葉に変えていけば、よりよいキャッチフレーズになるのではないかなと思いますので、ぜひまた事務局の方とご相談いただいて、新しい案をつくっていただけるといいなと思います。

○会長　今、●●委員がおっしゃったことは私もとても共感するところがあるのですが、「共に」というと「一緒に」という感じなのですが、「あい」というのはもっと相互性が入ってくるようなイメージがあります。一緒にやりましょうということだけではなくて、お互いにやりとりするみたいな感じになってくるというかです。

　ですから、「認める」といったことも、「共に認め」ではなくて、「認めあう」だと、難しい言葉では相互承認と言ったりしますけれども、私も認めているし、相手からも認めてもらえているという関係に入っていくということになると思うのです。それらを「共に」と表現してきてものを、さらに一歩踏み込んで「あい」という形に表現するかどうかだと思いますけれども、その辺りが課題です。その点は確認をさせていただくという形でよろしいでしょうか。それとももう少し、どうでしょうか。

○委員　私も今●●委員のご意見を聞きまして、最初の「学びを贈りあい」の「贈り」を取った「学びあい」、そこの上に「共に」がつくことで、「あい」がつくほうがやはりいいなと思います。「育つ」というところも、それでしたら「育ちあい」とか。ただ、こちらの「尊重すべき価値」のほうを見ると、１番目も２番目も「生きる」が２つ最後に続いてきているので、やはりこれから人生100年時代を共に生きていこうというところを強く打ち出しているのかなと感じましたので、前のキャッチフレーズほど３秒で分かるようなものをつくるのはなかなか至難のわざかなと思いますが、申し訳ございませんが、ぜひよいものをまた考えていただけたらと思います。

○会長　オンラインの方はいかがでしょうか。

○副会長　現行のを見たときに、新しいキャッチフレーズも「杉並の教育」というところで締めないといけないのかどうかということが１つ出てきそうな気がしまして。前回は教育委員会主導の教育をどうつくっていくかというイメージだったと思うのですけれども、今回はもう少し地域とか家庭の役割みたいなものも考えていこうとしたときに、必ずしも「教育」という、「杉並」が入るのは違和感ないのです

けれども、「杉並の教育」ととめなければいけないのかどうかというのが、そこに少し縛りがあるから案が出にくくなっているような気もしないでもないです。その辺りはどうですか。やっぱり「杉並の教育」でとまるべきものなのでしょうか。

○会長　何かちょっと対案みたいなものは出ますか。「杉並の教育」で終わらないで、例えば……。

○副会長　そこが何かうまく出ないのですけれども、何となくそれが縛っているような。これだけ出ないというのは、どこかに何か制約があるからうまく考えられないのではないかと思うと、そこなのかなという気がしているというレベルなのですけれども。

○会長　ありがとうございます。

　これは過去ずっと「杉並の教育」で締めてきたのでしょうか。

○委員　いえ、「杉並」で終わっています。

○会長　「杉並」で終わっているのですか。

○委員　前のは。

○会長　これはそうですよね。「共に創る杉並」ですか。「教育」はついていませんか。

○委員　ついていますね。

○会長　教育の振興計画ですから、「教育」がついていると思いますけれども。

　いかがですか。「杉並の教育」で締めなければいけないかという。

○委員　「何々のまち杉並」とかいうのはよくありますよね。

○会長　それは総合計画のほうなんかによくありますよね。

○委員　そうすると、総合計画とごっちゃになってしまうので、そこを区別するにはあってもいいのかなと。

○会長　はい。総合計画と一緒になってしまわないように、「教育」をつけることになるのではないかということですけれども、いかがでしょう。

○副会長　例えば対案というのでは、「人生100年時代に向けて、杉並でつながりあい、学びあう教育」ぐらいにしますか。

○会長　ありがとうございます。例えばですけれども、杉並というところをフィールドにして、みんなが学びあい、つながりあい、そういうようなイメージはどうかということですけれども。

多分これは考え方によると思うのですけれども、１つは、今まではどっちかというと、行政側に提言するような形でつくられてきているので「杉並の教育」と、行政としてこうしてくださいねみたいな形になっていたのですけれども、今回は区民として私たちはこうしますよという形で出して、ビジョンからは区の行政のほうにお願いしますねというつくり方になっていますので、その意味では、最初のⅠとⅡの価値と方針・視点に関しては、どちらかというと、私たちは杉並区においてこうしたいのですよと表現をすることも可能かとは思うのですけれども、そうすると、今、副会長がおっしゃったような、私たちは杉並でこういう教育をしたい、こうしたいのですよと言うことも可能かなと思うのです。また難しくなってしまいましたが…。いかがでしょうか。

では、ちょっと預からせていただく側としては、まず、「共に」をもっと相互性を強めるような形で、「何々しあい」と合意が皆さんのほうでできたという形で受け止めてよろしいでしょうか。その上で、例えば「育ちあう」がいいのか、「共に育つ」がいいのかはまた議論になると思います。「教えあう」、「認めあう」、または「学びあう」というのは「あう」でいいと思いますけれども、「育つ」といったことが「あい」という関係になるのか、むしろ一緒に育っていきましょうねという形にしたほうがいいのかはまた議論があるかと思いますので、その辺りも含めて引き取らせていただいて、事務局、あと副会長とも、研究室がすぐ隣っぽいですから、連絡をとりながら議論させていただくことにしたいと思います。

ありがとうございました。その上で、価値と基本方針・視点、先ほどもご指摘がありましたが、重複があったり、順序、いわゆるロジック、論理の問題もありますので、その辺りで少しご意見をいただけますでしょうか。

これは「尊重すべき」と書いてありますけれども、「尊重する価値」がいいのか、またはもう少しやわらかく「大事にする価値」とかですね。もともとは「譲れない価値」と言っていたのですけれども、その辺りも含めて少しご意見があれば伺いたいのですけれども、いかがでしょうか。

○委員　「尊重すべき」というところはもっと私は緩やかにと先ほども申し上げまして、あと１番のところも「共に学びあう」、「あう」というのを入れてもいいのかなと思います。ただ、やっぱり「つながり」というのが、これまでの議論でここに入るかどうかというのはちょっと流動的なのかなと思います。

それから、２番なのですけれども、この「認めあう」というのが、今後10年のビジョンを考えたときにちょっと弱いのではないかなという感じがするのですね。「認めあう」というより、むしろ「生かしあう」という表現もあるのかなと。あと「自らの人生をよりよく」というよりは、むしろ「自分らしく」のほうが価値から縛られない言葉になるのではないかなと感じております。

あと、「信頼しあう」もそうなのですけれども、冒頭から「信頼しあう」と言われると、そこに強制力が働いてしまうような印象をちょっと私は受けまして、信頼のもっと前提になる安心と安全とか、コミュニケーションだとか、何かもう少し――これは目標にするところだからいいのかもしれないけれども、「誰もが社会のつくり手になる」というところは、例えば「誰もが社会のつくり手になり、安心・安全をつくり出す」とか、「信頼をつくり出す」とかいうふうに逆転してもいいのかなと思いました。

それから、基本方針・視点のほうですが、先ほど誰に向けてということがありました。当初、私は全ての区民に向けてかと思いましたが、それだと逆に焦点がぼけてしまうところももしかしたらあるかなと。ただ、さっき会長のお話にもありましたように、教育ってすごく動くもので、今子どもの人が10年後にまた大人になっていくということをイメージしながらこの教育ビジョンはつくっているので、子どもに向けたことも必ずしも子どもだけのことではなくて、私たち大人のことなのだよという受け止めをこのビジョンの解説の中でしていただけると、子どもにとって大事にするものは大人にとっても大事なものなのだという書き方になるのではないかと思います。

ただ、いろんな人のことを考えると、「子どもの」とするよりは、もしかしたら１番も「一人ひとりの思いを尊重する」でいいのかもしれないと思いますし、あと、「ちがいを認め、高めあう」の「高めあう」というところは「生かしあう」とか、その高めるという方向性がちょっと気になるなという感じがします。

あと、３番のところも、「対話を大切にして、かかわりあう」ということなのですけれども、その対話の関わりというのは他者との関わりだけではなくて、自己との関わりもあるし、知識との関わりもあるし、いろいろ広い言葉なので、「成長する」でもいいのかなと思います。

あと、５番のほうで「つながる」というところが重複するのではないかというお

話もありましたけれども、例えば４番と５番もすごく大事なキーワードが入っているので、これは２つということもあるのですけれども、例えば「誰もが当事者として社会をつくり、人がつながる」とか、一緒にしてみるような発想はどうなのかなと思います。

それから、最後になりますけれども、前回もちょっと申し上げたように、この基本的な視点や方針を支える言葉の中にやはり２つの権利条約は入れていただきたいし、あと、ちがいを受け止める、認めるという中にも、選択肢がある教育というニュアンスが伝わるといいなと思います。私は、選択肢を自分で選べる、また、自分で選択肢をつくれるということがこれから大事になってくるのではないかと思っているので、ぜひ「選択」という言葉はどこかに入れ込んでいただきたいなと思っています。

○会長　ありがとうございます。たくさんありましたけれども、基本は、従来の価値志向性みたいなものは入れないということだと思います、今のご発言は。例えば「高めあう」というのは、そうではなくて「生かしあう」にできないかですとか、「よりよく」をむしろ「自分らしく」という形に組み換えるですとか、一方向に向けた価値が提示されているようなところは少し文言を変えたほうがいいかなと私も思いました。

あと、最後のご発言にもありましたが、選択肢が準備されていて選ぶのだということだけではなくて、むしろ自分たちでつくれるのだ、つくるのだという形で、もう少し積極的に子どもたち、また区民の方々を位置づけ直したらどうかということもあるのだと思いますけれども、その辺りで少しこの文言を調整ができないかということだと思います。

それから、この文章中にだと思いますけれども、いわゆる権利条約、子どもに関する条約を２つ入れておくということですね。そんなものももし可能であれば、文言としてきっちりと文章の中に書き込むことはどうかというご提案だったと思います。

ほかに委員の方々、いかがでしょうか。

○委員　やはり対象は区民全員だと思います。なので、私が思ったのは、ほかの区、例えば千代田区とかだと、子ども用の教育方針のようなものを配っているところもあるので、３秒で分かったり、ビジュアルで見せられるというのは、子ども向けに

分かりやすくしたものを別に出して、今回の骨子案などは中学生ぐらいの方々が読んでも分かるような形にしてみるといいのかなと漠然と思いました。

○会長　今のご提案は、基本的には文章の書き方としては中学生が分かるぐらいのものにしておいた上で、例えばこの教育ビジョンの説明みたいなものとして、特に子どもたち向けのものを何かもう１つ準備したらどうかということなのか、そうではなくて、もう１つ子ども向けの教育ビジョンみたいなものが要るのではないかということなのか、どちらだったでしょうか。

○委員　ごめんなさい。ちょっと聞き取れなかったのですけれども、多分前者、１つ大きいものを区がしっかり出して、さらに子ども向けというか、小学生などが分かるような形でもう１つ別に出すような形、前者のほうです。

○会長　提案としては、お願いしますということになると思いますので、また行政のほうで考えていただいて、もっと言えば全区民の方に分かっていただけるようにきっちりと対話するということでよろしいでしょうか。

○委員　はい。

○会長　特に子どもたちもここでは主役になっていくというか、担い手になっていくということでもありますので、小学生でも自分たちが大事にされながらここで育っていくのだと思えるようなものはやっぱり必要かと思いますので、またご検討をいただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。こちらの骨子の文言についてですけれども。

○副会長　●●委員がおっしゃった障害者権利条約とか、子どもの権利条約はぜひ僕も入れていただくといいなと思いました。

それから、●●委員がもう１つおっしゃった「選択」という部分は、僕は正直言うとちょっと違和感がある部分もあって、自己選択を通じて排除されて、収斂化していくみたいな、セグリゲーションが起きることがよくあるような気もするので、やっぱり話し合えることが大事なのかなという気はするのです。

そう考えたときになのですけれども、全国的に、例えばお母さんたちが学校の先生たちと一緒に話し合って学校の教育をつくりたいなと思っても、なかなか今言い出すことって、すごく緊張感を持って出ないとみんなに提案ができない。先生たちもこんなことをしたほうがいいと思うとのは分かっているけれども、めちゃくちゃ忙しいから、そんなことをしている暇はないから、こうしますよとお伝えをするみ

たいな。なかなか日頃コミュニケーションがとれないから、何かあるときはもうクレームになってしまうみたいな、そういう状況があるような気がする中で、このビジョンの中で、「やっぱり学校は保護者の声を聞きながらつくっていかなければいけないな」と先生たちが思ったり、親たちがもっと気軽に学校に行って、意見が言えることが自分たちとして当たり前のことなのだ、みたいなことがどこかで読み取れるかというと、そう思ってみると意外とないような気がして、何かそういうものがどこかに入らないのかなと。４番なのかもしれないですけれども、何かもうちょっと「参画」の話が入らないかなと思います。

子どもの意見を聞くという話は入ったので、それはすごくいいと思うのですけれども、保護者とか地域、まさにさっきお話として出ていた、コミュニティスクールの話としては、一部実現はされていると思うのですけれども、そういうものがもうちょっと日常化するような文言が何か入らないでしょうか。

○会長　「選択」という話もありましたけれども、自己決定と言われる形で、自己責任に回収されてしまって排除されてしまったりということが起こるので、そうならないようにということと、さらには「対話」とありますけれども、いわゆる「参画」、一緒にやりましょうという形で参画をしていく。また、もっと言えば、「参画」も相手があって自分がいくみたいな印象になるということがあるので、何かいい言葉がないかなと思うのですけれども、ある種のフォーラムみたいな感じというか、いわゆる平場でみんなが一緒に話ができるような場所、またはお互いに意思疎通できる場所として何かあるというか、そういう関係があるというか、そんなことも少し組み込めないかというご提案だと思います。

４番は、当事者として社会をつくり、担っていくということの中に文章として組み込むことは可能かなと思いますけれども、それを骨子、柱として出すことが可能かどうかということだと思いますけれども、そうしたことも含めて少しまたご議論いただけますでしょうか。

あと、●●委員、何かご意見はありますでしょうか。

○委員　１個感じたのが、５番の「学びを贈りあい、学びを通して人がつながる」というところで、「人とつながる」でもいいのかなと。その下に「学校で人がつながる」という文言があるので、「人がつながる」というよりは「人とつながる」でもいいのかなと今ちょっと感じていました。

あとは、まだいろいろ皆さんの意見を聞きながらずっと考えているというか、なるほどと思っているのですけれども、そこだけ今感じていたところです。

○会長　ありがとうございます。

●●委員、いかがですか。この骨子の柱に関してですけれども。

○委員　１のほうの●●委員のお話で、「自らの人生をよりよく生きる」ではなくて、「自らの人生を自分らしく生きる」というのは私もいい言葉だなと思いました。ぜひそこはそのように変えていただけたらなと思います。

ただ、「ちがいを生かしあい」はちょっとイメージしにくいかなと思っています。どういう状態を「生かしあう」というのかがちょっと難しいかなとご意見を聞きながら感じました。

あとは、特にここをこうしたらいいのではないかなと感じたことは特になくて、前回の話合いの中で、５番の「学びを贈りあい、学びを通して人がつながる」のところで、ここの中心が学校になっているので、学校だけではなくて幼稚園や保育園、子供園も入っているので、ここは「学校（園）」と、次の施策の具体的な方向で入っているところは、ここの５番のところにも入れたほうがいいかなと思いました。そうすると、地域という広い面と子どもが成長するという縦の面と、両方のことが大事にされている杉並なのだなというイメージが湧くと思います。

○会長　先ほどの価値が入っているところは、もう少し本人に即してという形に書き換える。「自分らしく生きる」ですとか、「高めあう」ではなくて、「認めあう」という感じですね。「ちがいを生かしあう」ということではないということですよね。そういう形で少し文言を変えられないかということと、あと学校がどうしても中心化してしまうのですけれども、学校だけではなくて、もう少しその前の段階ですとか、地域社会とのかかわりみたいな形で、もう少しその辺りの学びの在り方、循環の在り方みたいなものも少し組み込めないかという話だったと思います。ありがとうございます。

あとほかにいかがでしょうか。

○委員　まず、Ｉ番の「尊重すべき価値」のところで言うと、この３つの文言の「共に学び、共に生きる」というのは、つまり共同性だとか、相互性という言葉で集約できると思うのですけれども、次の「ちがいを認めあい」のところは多様性ですよね。３番目は「誰もが社会のつくり手になる」という意味で主体性。共同性、

多様性、主体性という３つの柱でというのはいいと思うのですね。そうすると、この「信頼しあい」というのがちょっと浮いてしまうなという感じがして、信頼って結局つながりなのかなとか、違いを認めあうというところで、この文言を少し工夫する必要があるかなと思いました。

あと、Ⅱの基本方針なのですけれども、この方針と視点というのが、今までの教育ビジョンだと「目標達成に向けた取組の視点」、これはまさに行政のやるべきことと書かれているのですが、今回のビジョンが区民主体のビジョン、区民が主役のビジョンだということで、これを子どもも含めた区民の方針として捉えるときに、この１番、２番、３番、４番、５番の文言が区民の方針として読めるかどうかということで、区民が主体の方向と書かれているかどうかはちょっと検討しなければいけないかなと思います。

○会長　その価値としては、共同性と多様性、主体性ということになるのではないかということですね。そうすると、「信頼しあい」はむしろ多様性のほうに入るという議論もできるのではないかという話だったと思いますけれども、その辺りを少しまた考えたいと思います。

それから、Ⅱの方針と視点なのですけれども、この５つが区民がそのような形で受け止めて、いわゆる方針・視点として考えられるかどうかといったことも当然考えなければいけないのではないかという話だと思いますけれども、その辺りいかがでしょうか。

例えばⅠは価値としてあって、今まではⅡの方針・視点が行政的に実現していくための視点として書かれていたと思うのです。その意味では、今度、区民の側の受け止めの在り方、区民がこう考えましょうねということであるとすると、方針とか視点という言葉がいいのかどうかといったことも問われてくるのだろうと思いますけれども、その辺りでいかがでしょうか。価値があって、それを受けて私たちはこうします、また、こういうことを大事にしたいと思いますということになるとすれば、方針とか視点でまとめるよりは、もう少し何か今私が申し上げたような形で、大事にしたいことが１番、それを受けて２番でこうします、こうしたいと思いますみたいなことですよね。何かその辺りでご意見はありますでしょうか。

●●委員、いかがですか。言葉として何かいい言葉はありますでしょうか。

○委員　ちょっと今言葉は思い浮かばないのですけれども、おっしゃるとおりです

よね。価値があって、その下にもうちょっと具体的な、一段階段をおりたものですよね。その関係は分かるのですけれども、現時点ではいい言葉が思い浮かばないです。でも、その関係がうまく表現できるといいなとは思います。

○会長　よく言うのは、価値とか目標が決まったら、今度は行動原則みたいな捉え方になっていくのですけれども、行動原則かどうかはちょっと別としても、何かそのような書きぶりになるのかなというのもあると思いますけれども、いかがでしょう。

この辺りもそのような感じでという形で、皆さんで一応合意をしていただいたと受け止めてよろしいでしょうか。ここもちょっと引き取らせていただくことを考え始めているのですけれども。いかがでしょうか。

その方向性でよろしいでしょうか。

いいですね。会長特権でそのようにさせていただきたいと思います。

あと、いかがでしょう。この骨子についてですけれども。大体このような構造とこのような内容でということでよろしいでしょうか。これからまた事務局にもさらにお手間をかけることになりますけれども、起草をして、次回のこの審議会では草案を検討していただくことになりますので、今日はそれに向けての骨子、枠組みづくりということになりましたけれども、それでほかによろしいでしょうか。ここまでのところは。

○委員　今回、会長と私のところは、審議会との連続性を考えようという位置づけになっていたとは思うのですけれども、例の審議会のほうで学びのところでは、今のたたき案としてはどういったタイトルが出ているかというと、「共に認め合い、みんなで創る学びのまち」となっています。

取組の方向性として、１つが「人生100年時代を自分らしく、いきいきと生きるための学びを支援する」。２番として「学びを通して、誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整える」。こんなことが今審議会の分科会のところではたたき案としてつくられています。

明日私は出席できず申し訳ないですが、会長にお願いしたのですが、各分科会の調整部会があって、また話し合われると思うのですけれども、またその先に審議会でいろいろなご意見が出てくるのではないかと思われますが、今、案としては申し上げたような案があがっています。この審議会での案と教育ビジョンのところがう

まくつながっていけるといいねという視点があったこともお伝えしたいということでお話しさせていただきました。

○会長　今、●●委員がおっしゃった審議会というのは、ここのいわゆる親審議会といいますか、基本構想の審議会です。その第３部会が学びとか文化とかスポーツとかが入っているのですけれども、その中の学びで区の大きな基本構想の方針として、今、●●委員が読んでくださったものが出ているということなのですね。簡単に言えば、人生100年社会を見据えて、誰も取り残さないことを基本に学びといったものをきっちりと保障していきますという方向性が出されているということになります。それとのかかわりで今回の教育ビジョンもありますので。

この基本構想の学びのところのキャッチフレーズ、タイトルが「共に認め合い、みんなで創る学びのまち」となっています。方向性としては、人生100年時代を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援すると。行政的な構想ですから、「支援する」が入っています。

２つ目が、「学びを通して、誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整備する」となっています。これらはここでずっと議論してきたことだと思いますけれども、人生100年時代ということと、自分らしく生きていくことを保障するための行政的な措置をどうするかということと、誰一人として取り残さないようにしていくということ、そういう社会をつくるための条件整備として学びを捉えていくということが書かれてあるということなのですね。

それを受けてこちらの教育ビジョンを今つくっているといいますか、それとの整合性をとりながらつくるということになりますけれども、こちらの基本構想のほうもいろいろ議論になっていますのは、先のことが分からなくなってきている中で、行政が10年後こうしますと言えないのではないかということも含めて、いろんな意見が出ています。区民一人ひとりが教育はこうしたいと思っているし、ほかのジャンルもいろいろあるのですけれども、そこもこうしていこうという議論にできないかということになっていると私は理解しているのです。

そういう意味では、行政がこうしますとか、10年後こういう目標を立ててそれを実現しますということではなくて、むしろ新しい時代に向けて自分たちはこうしていきます、こうしたいのですといったことを書けないかという表現になっているのではないかと思うのです。その中で、学びといったことも、区民が認めあって、み

んなでつくっていく学びのまちなのだという表現になっているということだと思います。それを受けて、今度、教育ビジョンのほうをどうするか、です。ですから、先ほどお話がありましたように、「学びあい」ですとか、「共に育つ、共に生きる」ということになっていると思いますけれども、そういう価値を入れていくといったことになるのではないかと思います。ありがとうございます。

ちょっと時間がきてしまったのですが、さらに最後、あと５分ぐらいなのですけれども、今日はここまでとさせていただいて、一度話合いをさせていただいて、皆さんのほうにまた後から骨子案の柱をお送りさせていただきたいと思います。

その上で、実はもう１つ今日は皆さんにお願いしたいと思いましたのは、次のミッションにかかわるところで、行政的にこれをどうしたらいいかといったことにご意見をいただければと考えていたのです。時間もあまりないのですけれども、何か一言二言ご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。今度は行政の教育ビジョンの推進計画に反映させるべきものとして、このようなことを盛り込んだらどうかというご意見、お考え、または感じていらっしゃることがあれば、お一人、二人、出していただければと思います。いかがでしょうか。

○委員　本当に抽象的で、具体例は出せませんけれども、例えば学校現場に限って言えば、何か新しいものが来たときに、「無理」というところから始めないで、「やってみよう」というところから始められる現場になったらいいのではないかと思うのですね。そのための支援を教育委員会はどうするかということを考えていただければいいかなと常々思っております。

○会長　学校側も新しいものを始めていくときに、「できない」ということから始まるのではなくて、「さあ、やってみましょう」と言いえるような形で教育委員会がバックアップできるような体制をという、ある種、組織の在り方のようなことになると思いますけれども、そのような行政の在り方を書き込めないかということだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○委員　私のほうで案じていることというか、ちょっと心配だなと思っていることがあって、娘が中学生なので年齢が高いほうのお話になるのですけれども、教育現場で先生の価値観や考え方が、やはり先生方は人それぞれいろいろなお考えをお持ちです。もちろん熱い思いで、一生懸命熱心にご指導いただいているのですけれど

も、それが子どもたちとマッチするかというと、全くそれがマッチせずに苦しんでいる子どもたちがたくさんいたり、画一的では全くなくて、人それぞれ、一人ひとりの思いを尊重するということになると、大人とか先生方、指導者はどうやっていけばいいのかというところが、その先、具体案としてどのように政策になっていくのかなというところが私としては非常に気になっている部分ではありました。

○会長　こちらの基本方針ですとか、価値にかかわるところですね。違いをどう認めあうのかといったときに、学校現場ですと、教師、教員たちと子どもたちの関係で、先生方がどう子どもたちの多様性をきっちり受け止めていくのかが問われてくるということもありますので、それを教育行政のミッションまたは推進計画の中にどう入れ込むかを考えてほしいということだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

あと、例えばここの議論でも最初の頃出ていましたけれども、学校をもっと自由に使えるようにといいますか、学校を学校としてだけ使わない。例えばちょっと変な言い方ですけれども、施設があって、夜、空いているのであれば、地域の方がもっと使ってもいいのではないかですとか、もっと言えば、学校そのものが地域のプラットフォームになるように、どんどん使いあえる関係をつくったらどうかですとか、いろんなご議論もありましたので、そのことも含めてこちらの推進計画のほうへ反映できるようなご意見をまたいただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本当に時間がきてしまいましたので、今日はここまでにさせていただいて、新しいことをするということの中で、皆さんからいろんなご意見があって、思いは多分共通していると思うのですけれども、それをどう表現するかといったところでちょっとずつずれがあったりしながら、なかなかまとまらない形になって申し訳ないのですけれども、一度私たちのほうで議論させていただいて、またご提案をしたいと思いますので、それに対してお答えをいただけるようにお願いしたいと思います。

それでは、議事を事務局にお返ししますので、事務連絡等をお願いいたします。

○庶務課長　次回の日程でございますが、予定どおり５月27日（木曜日）19時から開催させていただきます。会場につきましては、区役所中棟６階第４会議室、もしくはこちらの中棟５階第３・第４委員会室、いずれかを予定しておりますが、決定次第ご連絡させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。以上でござい

ます。

○会長　どうもありがとうございました。

　では、次回、５月27日の19時からですので、よろしくお願いいたします。

　それでは、本日の審議会をこれで終了したいと思います。審議にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。緊急事態宣言が出されることになってしまいましたので、どうぞお気をつけください。

――　了　――